

# 15分で学ぶ！ 障がい者支援の基礎

～知的障がい者とは～

## 第一回 「知的障がい者とは①」

## 知的障がいの定義

- 知的障がいとは、**発達期までに**生じた知的機能障がいにより、認知能力の発達が全般的に遅れた水準にとどまっている状態
- 知的機能や適応機能に基づいて判断
- 知能指数により分類
- 様々な中枢神経系疾患が原因
- 早期に治療・療育・教育が重要

厚労省 eヘルスネット参考

# 知的障がいとは

**※知的障がいの用語の定義は日本にはない**

- ①発達期（18歳未満）において遅滞が生じる
- ②知的能力が平均より有意に低い
- ③遅滞により適応行動が困難である
- ④「知能検査（田中ビネーやWISCやK-ABCなど）で知能指数が70ないし75未満（以下）のもの」といった定義がなされることもある
- ⑤生活面の適応問題と捉える場合もある  
「意思伝達・自己管理・家庭生活・対人技能・地域社会資源の利用・自律性・学習能力・仕事・余暇・健康・安全等」
- ⑥認知症といった発達期以後の知能の低下は知的障がいとしては扱われない

## 表 1 知的障がいの定義

(AAIDD 2010)

※アメリカ知的障がい・発達障がい協会

知的障がいは、**知能**および、概念的、社会的かつ実用的適応スキルによって定義される**適応行動**の両者の明らかな機能の限界を特徴とする能力障がいである。この障がいは **18 歳までに発生**する。以下の5項目の前提がある。

1. 今ある機能の限界は、その人と同世代の同輩や文化において典型的な地域社会の中で考慮されるべきである
2. 評価は、コミュニケーション、感覚、運動、および行動面での差異だけでなく、**文化的かつ言語的な多様性を考慮**して実施されるべきである
3. **個人内の機能の限界はしばしば強みと共存**している
4. 機能の限界を明らかにする際に大切なのは、**必要な支援プロフィール**を作製することである
5. 適切な個別的支援を時間をかけて実施するなら、**知的障がい児・者の生活機能の全般は改善に向かうことが期待される**

(原仁による仮訳 2010)

## 日本の知的障がい者の発生率

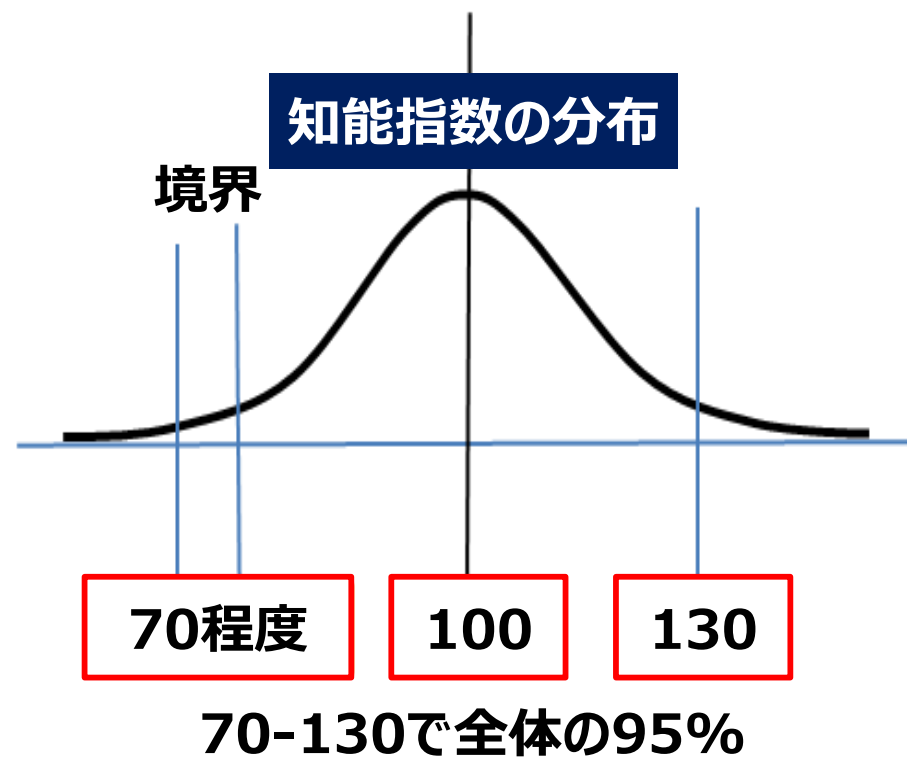
障がい種別	総数
身体障がい児/者	366万人
精神障がい	303万人
知的障がい児/者	55万人
認知症	205万人
発達障がい	
学習障がい	
AD／HD	
高次脳機能障がい	

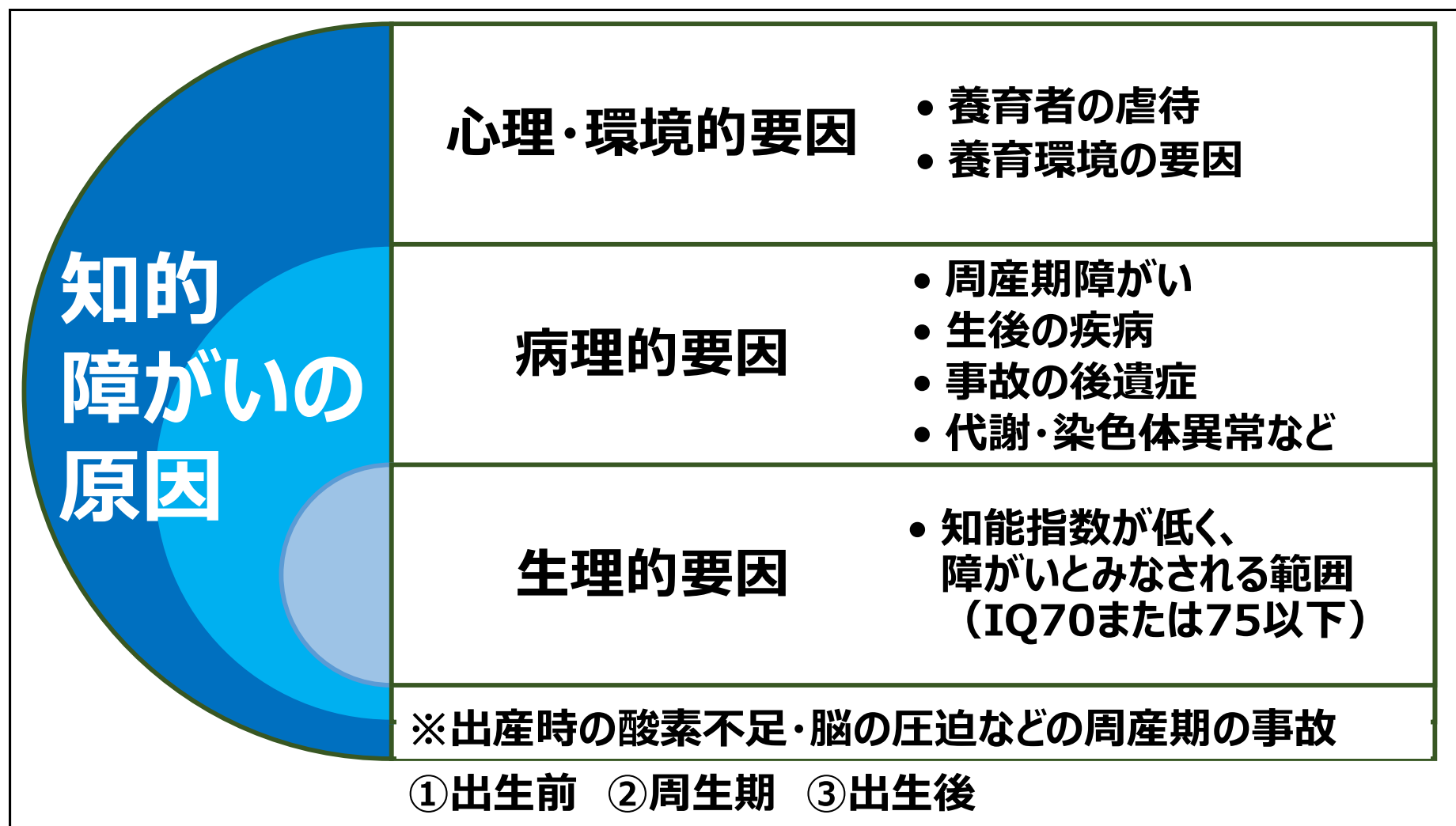


- アメリカ 総人口2.4-2.9%
- イギリス 総人口 2.0-2.5 %
- 日本は総人口の0.45%**
- 極めて少ない…**

## 日本の知的障がい者数の少なさ

発達障がいについては、各論あり。  
統計資料も不明確。高次脳機能障がいは全国統計はない。  
知能指数の分布から予測すると、IQ70以下の人2.27%(認知症を含む)存在するはず。  
理論的には日本の知的障がい者数は284万人。しかし、公的には0.45%の推計55万人程度。





# 知的障害とは・・・IQの目安

## 知的障がいの定義

- 発達期（おおむね18歳未満）に遅れが生じること
- 遅れが明らか（IQ70以下）であること
- 遅れにより日常生活への適応に困難があること

	20	35	50	70	85	
最重度	重度	中度	軽度	境界域	標準	

## 療育手帳

- 重度「A」と重度以外の中・軽度「B」の2区分
- 東京都は「愛の手帳」：1度から4度
  - 重度（A）      ・最重度      ・重度
  - 軽度（B）      ・中度      ・軽度（B／B2／4度など）
- 知的障がい（精神遅滞）の80%程度が軽度

# 知能検査

## ■ 田中ビネー知能検査 V (ファイブ)

**対象** 2歳から成人まで 就学する5～6歳の年齢に焦点。子どもが興味を持てるように、検査道具が工夫されている。日常生活において必要な知能と、学習する上において必要な知能の両面から測定

## ■ 新版K式発達検査

**対象** 生後100日頃から14歳くらいまで 「姿勢・運動」(P-M) 「認知・適応」(C-A)、「言語・社会」(L-S) の3領域から評価3歳以上では「認知・適応」面、「言語・社会」面に、重点を置かれ検査。言語反応感情、動作、情緒などの反応も記録し、総合的に判断する

参考資料

## 知能検査 つづき

### ■ウェクスラー式知能検査

ウェクスラー式知能検査は、年齢ごとに3つのテストに分類されます。

- ・幼児（3歳10ヶ月～7歳1ヶ月）→WPPSI
- ・学生児（5歳から16歳11ヶ月）→WISC
- ・成人（16歳～）→WAIS

**IQだけでなく、脳の発達具合を下位検査で総合的に判断する**

# 適応能力検査

## ■ 概念的スキルの困難性

言語発達： 言語理解， 言語表出能力など

学習技能： 読字， 書字， 計算， 推論など

## ■ 社会的スキルの困難性

対人スキル： 友人関係

社会的行動： 社会的ルールの理解， 集団行動など

## ■ 実用的スキルの困難性

日常生活習慣行動： 食事， 排せつ， 衣服着脱， 清潔行動など

ライフスキル： 買物， 乗り物の利用， 公共機関の利用など

## ■ 運動機能： 協調運動， 体育技能， 持久力など

・ vineland-II（全年齢）

・ ASA旭出式社会適応スキル（幼児～高）

・ S-M社会生活能力検査（乳幼児～中学生）